

平成29年2月15日（水）、日高合同庁舎において、第2回日高管内いじめ問題等対策連絡協議会を開催しました。

第1回連絡協議会において確認された「日高管内の相談支援体制の充実」を踏まえ、本連絡協議会では、「『日高管内いじめ・不登校等相談窓口マップ』の内容・活用方法」や「日高管内のいじめ根絶に向けた取組の推進」などについて意見交換を行いました。



事務局報告 平成28年度の日高管内いじめ問題等対策連絡協議会の取組

どさんこ☆子ども全道サミット どさんこ☆子ども地区会議

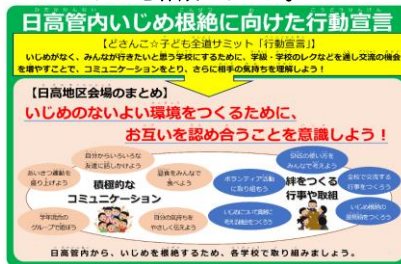
日高管内の小・中学校、高等学校の代表児童生徒83名がいじめの根絶に向けて主体的な話し合いを行いました。



【小・中学生、高校生混合の話し合い】

日高管内いじめ根絶に向けた 行動宣言

子ども全道サミット・子ども地区会議における児童生徒のいじめ根絶に向けた願いを基に、当連絡協議会においてポスターを作成しました。



【管内全ての学校に配付したポスター】

いじめ根絶！ メッセージコンクール

いじめ・ネットトラブルの根絶の各部門に、子どもたちの思いが込められた1181作品の応募がありました。

【いじめの根絶部門】

標語：中学校最優秀賞

「見てたのに 見ぬふりするのもしじめだよ」

【ネットトラブルの根絶部門】

ポスター：小学校最優秀賞



意見交換① 「日高管内いじめ・不登校等相談窓口マップ」の作成について



【マップ作成の目的】

管内の生徒指導上の課題である「いじめや不登校等に関わって、子どもや保護者が十分な相談等を受けることができていない」状況を改善するため、管内の相談機関の一覧を作成し、相談支援体制の充実を図る。

【各委員の主な意見】

- ・相談者にとって、相談機関が身近に感じられるよう、相談できる内容の簡潔な説明を加えるとよい。
- ・管内全体の相談窓口を示す本マップと各町の窓口一覧を関連付けることにより、一層活用しやすくなる。

意見交換② 日高管内の生徒指導上の課題及び次年度の方向性について

- ・いじめは子どもの命に関わる問題であるという認識を強くもち、全教員が認知したいじめの全ての解消に尽力することが大切である。
- ・人権作文等、各機関が行っている様々な取組を通して、子どもたちが、学校の中でいじめについて主体的に考え行動する機会を積極的に設けることが大切である。
- ・いじめは、いじめる側、いじめられる側だけではなく、はやし立てる「観衆」や見て見ぬふりをする「傍観者」を含めた全ての子どもたちの問題として捉えることが大切である。
- ・保護者が、子どもといじめの問題について真剣に話し合うなど、保護者と子どもが一緒にいじめの問題について考えることにより、いじめの未然防止、早期発見、早期対応につながる。
- ・各機関が個別の役割を担うことにとどまらず、関係機関に積極的に情報を発信し、「不登校 早期発見・支援プランシート」等を活用して連携することが大切である。



【次年度の方向性のまとめ】

- ・意見交換①を踏まえ、「日高管内いじめ・不登校等相談窓口マップ」の改善を図り、管内の全ての学校等に周知し、相談支援体制の充実を図る。
- ・意見交換②を踏まえ、管内の課題「児童生徒のいじめへの認識」、「各学校における年間を通じたいじめ未然防止の取組」の改善を図るため、平成29年度は、次の事項を目標指標として取組を推進する。
 - ◆いじめに関するアンケートにおいて、「いじめはどんな理由があっても許されない」と回答する児童生徒を100%にすること。
 - ◆いじめの問題への取組状況の調査において、「いじめ未然防止のための、年間を通じて取り組むプログラムを作成している」と回答する学校を100%にすること。